

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

P2 特集

平成27年度兵庫県社協の 主要事業

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

誰もが仕事や役割のある社会に
～淡路島発未来の仕事づくりを目指す
「ソーシャルデザインセンター淡路」～

P8 あなたのまちの社協ナビ

養父市社協
住民主体の小地域福祉活動を全市で推進
～社協が進める福祉委員活動～

P9 まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート

ハーブを通じた地域活性化プロジェクト
企業と自治会の連携による
食・農・医のまちづくり
一株式会社香寺ハーブ・ガーデン～

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

4

No.770



「淡路花博2015」が
開催中だよ!
(3月21日～5月31日)



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

淡路市



平成27年度 兵庫県社協の主要事業

3月26日、第237回理事会・第183回評議員会が開催され、本会の平成27年度事業計画・予算案が承認された。

平成27年度は、介護保険制度の改正や生活困窮者自立支援法の施行など、各市町において新たな制度が開始される。また、本会の中期計画である「2015年計画」も最終年度を迎えることになる。

今回の特集では、国・県の施策動向とともに、本会が平成27年度に展開する主な事業を紹介する。



子育て支援の各分野における計画が策定された(前ページ図表1参照)。これらの計画の実現に向けて、福祉関係者の力をより一層結集していくことが求められている。

本会でも、「2015年計画」に基づき、さまざまな機関・団体等と連携した取り組みを引き続き重点的に推進していく予定だ。以下では、同計画のアクションプランに基づき、平成27年度に本会が展開する主な事業を紹介する。

平成27年度県社協の主な事業

I 「ストップ・ザ・無縁社会」

全県キャンペーンの総仕上げ

平成27年度は「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進期間が最終年度を迎えることから、今後の展開について推進協議会を中心として議論を進めていくこととなる。

また、地域フォーラム・推進フォーラムの開催などを通じて、「無縁社会」の解消に向けた取り組みが地域において定着するよう、推進団体(212



社協会長・事務局長などの職階ごとに会議を開催(県内社協事務局長会議、H27.2.20)

団体、3月末日現在をはじめとした幅広い主体とともに展開していく。

II 「2015年計画」アクションプランに基づく取り組み

Action1 市町域での地域福祉の推進力を高める支援を強化します

地域での生活支援体制づくりに向けた取り組み

介護保険制度改正により市町に新たに配置されることになる「生活支援コーディネーター」について、設置促進と養成のための研修等の事業を、兵庫県から受託して実施する。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、各市町で実施されている「地域ケア会議」の現状と課題を整理し、活性化に向けた調査・研究を進める。

兵庫県社会福祉協議会 平成27年度の主な新規・拡充事業

I 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの総仕上げ

- 推進協議会総会・幹事会の開催
- 全県フォーラム、推進フォーラム、地域フォーラムの開催
- 後継事業の検討

II 県社協2015年計画 アクションプランに基づいた取り組み

Action1

市町域での地域福祉の推進力を高める支援を強化します

市町社協が、多様な主体と協働した福祉コミュニティづくりが行えるよう支援します。また、全県的な地域福祉課題についての研究・協議や政策提言を行い、市町域での地域福祉の推進力を高める支援を行います。

- 「地域での生活支援体制づくり」に向けた人材養成 **新規**
- 地域支え合い体制づくりの全県的な推進 **拡充**
- 「地域ケア会議の活性化」に向けた調査・研究事業 **新規**
- アクティブシニア応援事業の推進 **新規**

Action2

多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめます

多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめるため、多様な主体への支援、地域のネットワークを活用した活動への支援・普及等、県域の立場から取り組みます。

- 多様なボランティア活動の基盤強化 **拡充**
- 災害時の支援ネットワークづくり **拡充**

III 災害時の支援体制強化に向けた取り組み

- 1 災害対応力の強化 **新規**
- 2 東日本大震災の被災者支援等の実施

Action3

質の高い福祉サービスの充実・開発を支援します

福祉人材の育成を充実させるとともに、福祉従事者がいきいきと働くことができる職場づくりの支援を一層すすめます。また、質の高いサービスを安定的・継続的に提供できる福祉事業者への経営支援を強化します。

- 就職総合フェア等の開催 **拡充**
- 福祉のしごとイメージアップ作戦展開事業 **新規**
- 社会福祉専門研修事業の実施 **拡充**
- 社会福祉法人による「地域における公益的な活動」の全県的な普及促進 **新規**

Action4

「暮らしのセーフティネット」の充実・強化を支援します

関係機関による支援と住民による日常的な見守りや支え合いなどが有機的に連携して、「見守り・支援・連携」が一体となった「暮らしのセーフティネット」の取り組みの充実・強化を支援します。

- 市区町社協における相談支援力の向上に向けた取り組み **拡充**
- ひょうご若年性認知症当事者グループ推進事業の実施 **新規**

IV 事業展開に向けた組織基盤強化

- 1 次期中期計画の策定 **新規**
- 2 政策提言機能の強化
- 3 福祉関係情報の発信の充実

※平成27年度事業計画の詳細は、県社協ホームページでも公開します。

■図表1 兵庫県が今回策定した分野別計画(概要)

「兵庫県老人福祉計画(第6期介護保険事業支援計画)」(平成27~29年度)

目標

- 医療、介護、予防、住まい、生活支援が地域を単位として提供される仕組みづくり
- 高齢者の持てる能力を生かし、自立を促す介護の提供(自立)
- 地域住民・組織、NPO、介護事業者等、地域全体で支え合う社会の構築(連帯)
- 高齢者が安心して暮らせる地域で、介護への不安無く生活できるサービス、ケアの確立(安心)

推進方策

- 地域包括ケアシステムの構築
- 人材確保及び資質の向上
- 介護保険制度運営の適正化
- 高齢者の持てる力を活かすための支援

「ひょうご障害者福祉計画~自分で決める 自分の生き方 みんなでつなぐ 共生の社会~」(平成27~32年度)

目標

障害のある人もない人も、皆が支え合い、住みたい地域・場所で、ともに暮らしていけること

施策分野ごとの取り組み体系

- 生活基盤づくり(地域で適切な相談が受けられる体制の構築 など)
- 教育・社会参加(インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の充実 など)
- しごと支援(障害特性や能力に応じた多様な働き方が可能な就業環境の実現と自己選択可能性の確保 など)
- 暮らし支援(多様なニーズや生活設計に合わせた住まいの整備による、障害のある人の生活環境の向上 など)
- 安全安心(相互の信頼が確立された住みよい社会の構築 など)

「ひょうご子ども・子育て未来プラン」(平成27~31年度)

基本理念

誰もが安心して子育てできる兵庫の実現

目標

- 豊かな人間性を育み、安定した生活を築く未来の親づくり
- すべての子どもと子育て家庭への切れ目のない支援による、子育てしやすい環境づくり
- 仕事と生活が調和し、職場・地域が子どもと子育て家庭を支える社会づくり
- 若者の自立支援による未来の親づくり、● 結婚・妊娠・出産への切れ目のない支援、● 就学前の教育・保育と子育て支援、● 子育てと両立できる働き方の実現、● 子育て家庭を支える地域社会づくり、● 特別な支援が必要な子どもや家庭への支援

推進方策

地域福祉を 取り巻く情勢

平成27年度は、介護保険制度改正や子ども・子育て支援新制度の本格施行、生活困窮者自立支援制度の施行など、社会保障制度改革の大きな区切りを迎える。地域に応じた体制整備と支え合いの地域づくりが、これまで以上に求められることになる。

また、社会福祉法人制度も大きな転換期に差し掛かっている。2月に

は、国の社会保障審議会福祉部会が報告書を公表し、経営組織の在り方や運営の透明性の確保、地域における公益的な取り組みの責務等が提起された。さらに、同審議会の福祉人材確保専門委員会も報告書を取りまとめ、2025年に向けた福祉人材確保指針の見直しなどが示された。今後法改正も予定されており、社会福祉法人への経営支援の充実が一層求められることになる。

このような状況の中で、兵庫県では高齢者福祉、障害者福祉、子ども



地域支え合い体制づくりの 全体的な推進

市町社協活動推進協議会のプロック活動の活性化と、県域での地域福祉の推進に向けた人材育成・財源づくりなどについて検討する場づくりを進める。併せて、社協の人材育成・財源づくりなどについての検討の場を新たに開催する。

Action2

多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめます

多様なボランティア活動の 基盤強化

ボランティアグループからNPO法人等まで、幅広く資金支援や情報提供を行い、ネットワーク強化と自立支援を進めていく。また、「ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議」の開催等を通じ、地域の活性化に取り組みNPO等と企業との連携を進める。

災害時の支援ネットワークづくり

災害時のボランティアバスの運行や、関係団体の支援ネットワークづくりなどを通じて、事前の備えも含

Action4

暮らしのセーフティネットの
充実・強化を支援します

市区町村協における相談支援力の 向上に向けた取り組み

生活困窮者自立支援制度の施行を踏まえ、同制度との連携方を協議する会議・研修等を実施するとともに、市区町村協の相談支援力を高めるための研修を実施する。

若年性認知症支援体制の強化

県社協に設置している若年性認知症生活支援相談センターによる相談支援や研修等の開催に引き続き取り組みとともに、当事者グループの立ち上げ支援を新たにを行う。

権利擁護部会での意見から (3月5日開催)

- 若年性認知症など新たな課題への支援は良いことだが、病気や障害に応じた多様な当事者団体があるので、そちらにも目を向けてほしい。
- 生活困窮者自立支援制度が開始されるが、電話相談では経済的困窮だけでなく、引きこもりなどの相談も多い。今後の大きなテーマである。
- 多くの事業に手を広げすぎではなく、重点化して取り組むことも必要ではないか。

地域福祉推進部会での意見から (2月26日開催)

- 地域福祉の推進に向けて、市町間の格差が出ないように、どこの市町でも最低限取り組んでいくべき柱について議論していく必要がある。
- 社会福祉法人の地域公益活動については、議論のテーブルを作る上での社協への期待は高い。
- 生活困窮者自立支援制度では、単なる仕事の斡旋だけでなく、家族支援の視点も必要である。
- 災害時などの支援に向けて、要援護者の情報が行政から伝わってこないという課題がある。

めた災害ボランティアへの支援を充実する。

Action3

質の高い福祉サービスの
充実・開発を支援します

福祉人材確保の充実

団塊世代が75歳以上となる2025年(平成37年)には、全国で約30万人の介護人材が不足するとの見通しがある中、福祉人材確保は喫緊の課題である。

本会の福祉人材センターでも、従来の就職総合フェアに加え、福祉業界就活セミナー(仮称)を新たに実施するとともに、単独での人材確保



3月11日には、東日本大震災直後からのボランティア活動の貢献が認められ、宮城県知事の感謝状を同副知事よりいただいた

Ⅲ災害時の支援体制強化に 向けた取り組み

南海トラフ地震が想定される中、平成26年度の丹波豪雨災害の経験も踏まえ、災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議との連携を密にし、災害ボランティアセンター運営支援能力の向上を図る。また、東日本大震災の被災者支援等も継続して実施する。

Ⅳ事業展開に向けた組織基盤強化

「2015年計画」後継計画の策定
平成27年度は「県社協2015年計画」の最終年度となることから、同計画についての検証を行いながら、学識経験者の意見を踏まえ、役員

福祉事業推進部会での意見から (3月9日開催)

- 地域公益活動に関連して、今回制度化される「地域協議会」の位置づけと社協の役割を考えていく必要がある。
- 就職フェアの来場者が実際に福祉職場に就職しているかの調査も必要ではないか。また、中学生や高校生の段階からのアプローチも大切である。
- 福祉人材確保に向けて、種別協議会でブロックごとに学校訪問などを行っている。市町の教育委員会との連携が課題である。

等が困難な小規模事業所による連携事業の支援などを行う。

さらに、「福祉のしごとイメージアップ作戦展開事業」として、フェイブックの活用やDVDの作成などに取り組み、福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を多くの人に伝える活動を展開する。

社会福祉専門研修事業等の実施

社会福祉研修所において、ストレスマネジメントの意義や重要性、管理監督職に求められる役割や必要なスキルを習得するための研修等を新たに実施する。

また、平成28年度から介護支援専門員研修の新制度が施行されるこ

が一体となって次期中期計画の策定を行う。

政策提言機能の強化

平成27年度に行われるさまざまな制度改革の実施状況(図表2参照)を踏まえ、県内の福祉関係者が

ら現場の声を聞き、社会福祉政策委員会を通じて積極的な提言活動を行う。また、支え合う社会づくりに向けて、福祉と教育との連携方策の具体化を進めていくための協議を行う。

■図表2 平成27年度における社会福祉関係の主な情勢動向
(本会社会福祉政策委員会による重点提言に基づき整理)

	国の動向	関連する兵庫県の平成27年度新規施策
重点提言1 地域包括ケアシステムづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●介護保険法改正、介護報酬改定(H27.4.1~) ●予防給付の一部を市町事業(地域支援事業)に移行 ●特養の入所要件を見直し ●一定以上の所得のある利用者の自己負担を2割へ引上げ(H27.8.1~) 	<ul style="list-style-type: none"> (新)生活支援コーディネーターの養成 ・市町の介護予防・生活支援サービス基盤強化を担うコーディネーターの養成等のための研修会を実施 (新)地域サポート事業(安心地区)の普及・推進 (新)サービス付き高齢者向け住宅機能強化事業 (新)定期巡回・随時対応サービス充実支援事業 (新)認知症相談センター(仮称)の設置推進事業 (新)認知症徘徊・見守りSOSネットワークの構築
重点提言2 生活困窮者支援	<ul style="list-style-type: none"> ●生活困窮者自立支援法施行(H27.4.1~) 	<ul style="list-style-type: none"> (拡)生活困窮者への支援 ・住宅確保給付金事業、自立相談支援事業、就労準備支援事業、ホームレス対策事業等を新たに実施
重点提言3 災害時の支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●各自治体における災害対応(避難行動要支援者名簿・個別支援計画の作成、福祉避難所等の整備など) 	<ul style="list-style-type: none"> (新)災害福祉広域支援ネットワーク構築事業 ・行政、福祉関係者等による災害福祉広域支援ネットワークの構築に向けた検討委員会の設置 (新)日本海津波浸水シミュレーションの実施 (拡)地域防災計画の推進 (新)地域防災リーダー活動の支援
重点提言4 権利擁護の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者差別解消法、障害者雇用促進法改正法の施行(H28.4.1~)に向けた準備 ●「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」(H27.1.27)に基づく施策 	<ul style="list-style-type: none"> (新)障害者差別解消総合支援事業 (新)障害者雇用拡大支援事業 (新)障害者採用企業従業員研修事業 (新)障害者の在宅ワーク推進モデル事業 (新)障害者体験ワーク事業
重点提言5 福祉人材の確保と育成・定着及び資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ●「2025年に向けた介護人材の確保～量と質の好循環の確立に向けて～」(社会保障審議会福祉人材確保専門委員会、H27.2.25)に基づく施策 	<ul style="list-style-type: none"> (新)介護業務イメージアップ作戦展開事業 (拡)福祉・介護人材マッチング機能強化事業 (新)但馬・丹波・淡路地域事業所対象の就職フェア (新)介護人材確保に向けた市町・団体支援事業 (拡)職場研修アドバイザー事業 (拡)保育教諭確保のための資格・免許取得支援



施設種別を越えて、地域の社会福祉法人が結集!
(神戸市垂水区社会福祉法人連絡協議会設立総会、H27.3.17)

とに伴い、制度の円滑な実施に向けた準備に取り組む。

「地域における公益的な活動」の全体的な普及促進

今後、社会福祉法人の責務として、既存の制度の対象にならないサービスを提供する「地域における公益的な活動」が位置付けられたことを踏まえ、兵庫県社会福祉法人経営者協議会と連携して、法人と市町社協等の協働による活動の全体的な普及促進を図る。なお、すでに県内では南あわじ市で社会福祉法人の連絡協議会が設立されており、3月17日には神戸市垂水区でも同様の協議会が設立された。



ソーシャルデザインセンター淡路では、心の病気や生き方に悩む若者など、生きづらさを抱える人々が淡路島で役割をもって暮らせるよう、さまざまな事業を展開しているんだ。今回はその中でも、「仕事に合わせた人づくり」ではなく「人に合わせた仕事づくり」に向けた地域ぐるみの取り組みを紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

人に合わせた仕事づくり

うつ病や発達障害を抱える人間関係が上手くいかない人、障害児の母親などは支援策がいまだ十分とは言えず、社会とつながる機会も少ないのが現状だ。ソーシャルデザインセンター淡路では、平成24年度から公共施設などの清掃を通して、そのような人たちに合った働き方を探り始めていたが、受け入れ人数に制限があったために、より個人の特性に合わせた、幅の広い仕事づくりを模索していた。

そこで発案されたのが、地元食材を詰め合わせた「淡路島あめけだまギフト」だ。商品は農家等の協力を得て集め、箱の組み立てからラベル



「欲しくて駄々をこねるほどの」という意味を含めた「淡路島あめけだまギフト」の箱詰め作業

誰もが仕事や役割のある社会に

～淡路島発未来の仕事づくりを目指す
「ソーシャルデザインセンター淡路」～

病気や障害と向き合いつつ、自分のできることを一生懸命模索している人々は、社会の一員として、社会復帰できていないのだろうか。そんな疑問から、センターでは就労支援だけでなく、本人の頑張りや周囲が温かく見守ることのできるような取り組みの必要性を痛感した。

そこで、本人の障害も含め個性に応じた働き方ができるように、一緒に仕事をする仲間に向けて「ジョブパートナー養成講座」を開催し、職場に知識と思いやりを持った人を増やすための活動を始めた。養成講座への参加をきっかけにつながった介護



障害の特性や相手との向き合い方を学ぶ（ジョブパートナー養成講座）

書き、梱包など各自が得意とする作業を分担し、より多くの人が参加できるように工夫した。しかしある日、統合失調症に悩む女性の「週3日、1日3時間しか仕事できない私は社会復帰できていない」とのつぶやきから、周囲から期待される、社会復帰と現実とのギャップが明らかになった。

パートナーを職場に増やす

施設では、本人たちと共に仕事をしたいという声も聞かれ、共感する理解者が広がっている。「生きづらさを学んでも、実際に生きづらさを抱えた人と出会う機会が少なければ、本当の理解は進まない」と語るセンターの木田代表の言葉は力強い。

現在では、車いすの方でも旅行しやすい社会づくりに向けたユニバーサルツーリズムを構想しており、どっやったら旅を楽しめるかを地域と共に考える機会をつくろうとしている。支える—支えられるという一方通行ではなく、双方向で共に暮らしやすい社会をデザインしていく実践が、さらに広がりを見せている。

取材を終えて

社会から孤立している人々の悩みを受け止めることで新たな連携が生まれ、互いの違いを認め合える懐の深い社会づくりにつながっていると実感できました。

NPO法人
ソーシャルデザインセンター淡路
南あわじ市神代地頭方1538-1
☎0799-42-0399
URL <http://awajisoda.jp/>



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ！全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

“集落の誇り”を再確認し、地域を元気に

淡路市では、2月14日に「第1回淡路市集落福祉フォーラム」を開催し、市民など450人が参加しました。シンポジウムでは「地参地笑のまちづくり」をテーマに、地域の誰もが参加でき、笑い合え、元気になれることを目指した、支え合い・助け合いに取り組む活動者からの実践報告などが行われました。

その後の分科会では、昔からの住民と移住者をつなぐ集落における実践や、楽しみながらできる地域での実践活動のコツなど、多様な取り組みが報告されました。参加者からは「フォーラムが続いていくことが集落の誇りを再確認し、地域の元気につながる」との発言もあり、「集落のこれから」を考える機会となりました。



「ご近所福祉」を進めるために！

佐用町では、3月7日に地域フォーラムとして「佐用町地域福祉研修会」を開催し、福祉委員や民生委員・児童委員および民生・児童協力委員等が参加しました。当日は、岡山県浅口市社協事務局次長の土屋英樹さんから、「みんなで小地域のたすけあいの大切さを考える」と題し、普段からの地域の中での関係性がいざというときに役立った事例などを交えた講演が行われました。また、町内の福祉委員と民生委員・児童委員から、普段の住民との関わりや福祉関係者の連携の必要性について活動を交えた報告がなされ、「ご近所福祉」について参加者に改めて考えてもらう機会となりました。



地域での見守り、つながり、助け合い

芦屋市では、3月6日に地域フォーラムを開催し、市民など230人が参加しました。基調講演では、「地域活動と地域ネットワークの可能性」をテーマに甲南女子大学准教授の鈴木大介さんから、支え合えるまちづくりの必要性や支援ネットワークづくりのポイント等を分かりやすくお話しいただき、住民による地域活動の素晴らしさを確認しました。

市内を中心に活動しているアンサンブル・ホルテニアによるブサルター（手作りの弦楽器）の演奏を楽しんだ後の座談会では、自治会等から社会奉仕活動などの取り組みが報告され、参加者からは、「地域活動の事例が聞けて良かった」などの声が聞かれました。



推進協議会の幹事会を開催！

3月9日、県福祉センターにて、全県キャンペーン推進協議会の幹事会が開催されました。当日は、平成26年度に各地で開催された地域フォーラム（17市町社協）や推進フォーラム（3幹事団体）の開催状況などと併せて、決算見込みを報告。また、最終年度を迎える平成27年度の事業展開について協議しました。

出席者からは、「地域では見守り活動などの担い手が少なく、深刻な状況である」「孤独死を無くすためにも、このキャンペーンを続けていかないと、無縁社会は一層拡大していくことになる」などの声が上がりました。



まちとつながる・住民とつながる!

企業・NPOの地域づくりレポート



小学校を活用した同社の夢前工場

高年齢者にその経
耕作放棄地で、
区内の荒廃した
せた。さらに、地
品の研究施設と
してよみがえら
をハーブ関連製
とを考へ、校舎
して利用するこ
表取締役社長の福岡譲二さんは、前年に廃校とな
った山之内小学校をできるだけ元のまま残

今後は、リターン・リターンしてきた若者が
農業で食べていけるよう、農業のイノベーション
(技術革新)を考えているほか、廃校・廃園となっ
た幼稚園や小学校の建物を活用したレストラン

株式会社香寺ハーブ・ガーデン
所在地 姫路市香寺町矢田部689-1
TEL 079-232-7316
URL <http://www.koudera-herb.com/>

ハーブを通じた地域活性化プロジェクトだ。
同市夢前町の山之内地区は、高齢化率が
46.3%に上り、若い世代が流出している状況
にあった。平成23年、香寺ハーブ・ガーデン代
表取締役社長の福岡譲二さんは、前年に廃校と
なった山之内小学校をできるだけ元のまま残
して利用するこ
とを考へ、校舎
をハーブ関連製
品の研究施設と
してよみがえら
せた。さらに、地
区内の荒廃した
耕作放棄地で、
高年齢者にその経

一 高齢者の経験を生かした地域活性化

姫路市にある香寺ハーブ・ガーデン株式会社では、農薬や除草剤を使用せず自然に近い状態まで育てたハーブと、地元播磨の地域資源とを組み合わせて、化粧品や食品等の製造販売、抽出・発酵技術の研究開発を行っている。同社が近年力を入れているのが、商品であるハーブの生産を通じた地域活性化プロジェクトだ。

ハーブを通じた地域活性化プロジェクト 企業と自治会の連携による食・農・医のまちづくり — 株式会社香寺ハーブ・ガーデン —

験や技術を生かして草刈りや収穫等のハーブの生産に関わってもらい、生産したハーブを同社で全て買い取り、企業や医療関係者等に送る仕組みを作り上げた。一年に数回帰ってきてくれる孫にお小遣いをあげたいという、地域の高齢者からのささやかな願いがきっかけとなった取り組みだ。

一 自治会と連携して食・農・医の融合を

福岡さんは、「食べることによって病を治す」という、古代ギリシャの医学者ヒポクラテスの考えに基づき、農と医と食の融合を目指す「ヒポクラテス・ブレッシ構想」を、この山之内地区で実現させたいと考えている。その人に合った食事や適度な運動、土に触れることなどによって、さらなる健康増進を図ろうとするものだ。昨年10月には、山之内連合自治会と連携協定を結び、むらびらきイベント「食と農と医のシンポジウム in 山之内」を開催した。



地域みんなでシャボン玉を飛ばそう!
(むらびらきイベントの様子)

ンやカフェを作る
など、豊富な地域
資源に着目した
観光にも力を入
れていきたいと考
えている。
「この地域を
守っていくための
基盤を作り、若者
たちにバトンをつ

なきたい。地域と連携しながら今ある美しい自然を生かし、ハーブを使った商品が地域活性化のお役に立てればということが、私の大きな願いです」と語る福岡さん。企業が持つ最先端の技術と、日本の良き文化・食習慣・精神性を融合させながら、東西4キロ・南北8キロの広い山之内地区を「元気を発信できる町」にすることを目指した同社の取り組みはこれからも続く。

あなたのまちの 社協ナビ

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

活動を
もっと詳しく
知りたい方は

養父市社会福祉協議会
☎079-662-0160

養父市社協 検索



住民主体の小地域福祉活動を全市で推進 ～社協が進める福祉委員活動～

養父市社協では、第2次地域福祉推進計画で「ささえあう心で 笑顔あふれる 福祉のまちづくり～みんなでつくる みんなのしあわせ～」を福祉目標に掲げ、小地域での見守り活動を住民が主役となって進めるため、福祉委員を市全域で設置するとともに、身近な地域での話し合いの場づくりを重点的に行っている。

地域の課題を話し合う場づくりに向けた社協の働きかけ

平成16年の合併当初、養父市の旧4町での小地域福祉活動は、それぞれで異なっていた。すべての区(自治会)で福祉委員*が設置されている町もあれば、未設置の町もあったため、合併協議の段階から住民自らが地域課題をキャッチし、見守りや支え合いの取り組みを全市的に進める必要性が議論された。その後、社協では小地域福祉懇談会を開催したり、福祉委員が未設置の区ではモデル地区を設置して、その必要性を丁寧に説明する働きかけを行った。

その結果、現在では市内96%の区において福祉委員が設置され、区長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員とともに「福祉連絡会」を組織している。また、市内18の旧小学校区ごとに福祉連絡会のメンバーが集う「地区福祉委員会」では、参加者が区ごとにテーブルを囲み「福祉防災マップ」の情報更新や見守りについて情報交換・意見交換を活発に行っている。



地区福祉委員会の様子。各区の活動目標や計画も話し合って決めます

「あのおじいさん、冬場は外に出

られない。継続して訪問しよう」といったように、認知症や一人暮らしの高齢者、介護者の家族など気になる人について、顔の見える小さなエリアならではの、見守りに向けた話し合いが進められている。さまざまな立場のメンバーが話し合うことで、地域みんなで取り組む活動につながっている。

*福祉委員…市社協会長の委嘱を受け、区長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員等と協力し、小地域で会食会、ふれあいサロン、住民座談会、福祉学習会、個別援助活動などに取り組むボランティア。養父市では、全世帯の1割弱にあたる716人が委員として活動している。

話し合いで生まれる気づきから、お互いを理解する地域づくりへ

地区福祉委員会での話し合いは、生きづらさを抱えながら地域に暮らす人への気づきが生まれる場でもある。これまでも、「認知症」や「うつ」などをテーマに据え、当事者を理解し、支え合う地域づくりを進めようという動きが生み出されてきた。今後も、小さな顔の見えるエリアでの話し合いの場づくりを支援し続けながら、誰もが暮らしやすい地域づくりに向けた理解と、見守り・支え合いの担い手を広げていく。

「元気にされていますか」顔の見える地域で進む友愛訪問



取材を終えて

福祉委員をはじめ地域の方々が、地域の課題や将来を話し合う様子から、過疎化や高齢化が進む中でも「安心して暮らし続けられる地域」をつくりたいという思いが伝わりました。話し合いから生まれるさまざまな気づきは、気になる人を見守り、支え合う活動を生み出す大切な基盤だと感じました。

会長から 養父市社会福祉協議会 会長 小林 哲夫

今や国家戦略特区の農業改革拠点づくりで全国的に報道され、事業も気合いも右肩上がりの養父市にある当社協は、第2次地域福祉推進計画(平成25～29年)で「ささえあう心で 笑顔あふれる 福祉のまちづくり～みんなでつくる みんなのしあわせ～」を福祉目標に掲げ、全市的重点目標として「小地域での見守りあい活動をみんなですすめましょう」を目指しています。

一方、住民の皆さんの思い・願いである「誰もがいつまでも安心して暮らせる地域でありたい」と、目指すところは同じであり、両輪として機能すべく連携を深め、課題を共有しながら福祉のまちづくりを進めております。



第2回福祉の就職総合フェア
inHYOGOを開催!

3月4日、神戸サンポーホールにて「第2回福祉の就職総合フェア」を開催した。当日は約500人の学生・一般求職者が来場し、求人事業所の採用担当者からの話に熱心にメモを取る姿が見られた。

また、併催イベントとして「福祉の就職ガイダンス」を実施。介護労働安定センター兵庫支所介護能力開発アドバイザーの多嘉良律子氏より、就職にあたっての心構えや福祉の仕事の魅力などについての講演が行われた。

福祉人材センターでは、安定的な福祉人材確保に向けて、次年度以降も就職フェア等の各種事業を定期的に開催する予定である。



ご参加いただいた事業所の皆さまへフェアで面談された方の採否結果を「面談相談カード」に記入の上、6月30日までに福祉人材センターへ送付願います。

寄付・寄贈のお礼

2月25日、(株)大正銀行・岡三アセットマネジメント(株)より、デジタルサイネージ(電子看板)並びに現金を寄贈・寄付いただいた。両社では、「大阪・兵庫応援外国債券オープンファンD」の運用益の一部を寄付する社会貢献活動を展開しており、今年度で4回目。寄贈物品は、本会が実施する事業の広報・啓発等に活用していく予定です。



3月3日、近畿陸運協会より兵庫県社協に50万円が寄付された。同協会による寄付は今年で29回目。寄付金は、県内の地域福祉の推進を目的としたさまざまな事業展開に役立てていく。



災害ボランティアに関する
研修を相次いで開催!

協働の在り方を学ぶ

2月23～24日、全社協と本会の主催により、「災害ボランティアセンター運営者研修」(近畿ブロック社協との共催)を開催。県内外から社協職員やNPO関係者など100人を超える参加があった。

本研修は、多様な主体が協働してセンターを運営するための視点や方策を学ぶことが目的。災害支援の経験豊富な実践者が講師となり、「被災者の多様なニーズを受け止める姿勢」や「地元住民やNPO等が協働し、支援の限界をつくらないこと」「積極的な情報発信」などが強調された。また、日頃から地域



多様な団体から参加があった運営者研修(2月23～24日)



豪雨災害の経験を次に生かす(3月4日)

豪雨災害の経験を次に生かす(3月4日)の研修では、「実例に基づいた研修で、自分の市区町で明日からやらなければならぬことが理解できた」などの感想が聞かれた。

の生活課題を把握し、住民や関係機関と顔の見えるネットワークをつくることの大切さが確認された。

各市町での実践につなぐ

3月4日には、ひょうごボランティアプラザで「災害ボランティアコーディネーター養成研修」を開催。県内の市区町村社協職員等46人が参加した。

同研修のテーマは、「丹波市災害を踏まえた災害ボランティアセンターの運営について」①センター設置・運営体制の構築等事前の準備、②センターの運営、③災害ボランティアコーディネーターとしての心構えと担い手力の向上をポイントに、プラザ室崎益輝所長のオリエンテーションや丹波市社協松浪豊事務局長の報告に加え、グループ討議を実施した。参加者からは、「実例に基づいた研修で、自分の市区町で明日からやらなければならぬことが理解できた」などの感想が聞かれた。



みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです



こんな取り組みをしています!

2月15日、「第16回兵庫県総合リハビリテーションケア研究大会」を兵庫県リハビリテーション協議会と協力して開催しました。テーマは「精神障害のある人が地域で当たり前に暮らす・働くを考える」で、精神障害のある人を支援する関係職種や当事者の方が交流し、実りの多い学びを得ました。



連絡先 一般社団法人 兵庫県精神保健福祉士協会
〒650-0004 神戸市中央区中山手通6-1-30
兵庫県社会福祉研修所内
☎・FAX 078-362-8920
URL <http://www.hyogo-psw.org/>
Mail office@hyogo-psw.org

一般社団法人 兵庫県精神保健福祉士協会

精神保健福祉士とは、平成9年(1997年)に誕生した精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格です。元々精神科ソーシャルワーカー(PSW)の名称で導入された専門職で、精神の障害がある人の生活問題や社会問題の解決のための支援や社会参加・リハビリテーションに向けての支援活動を通して、地域での「その人らしい生活」を獲得することを目標としています。

我が国では他の先進諸国に比べて、精神障害がある人の社会復帰や参加についての取り組みは長年著しく立ち遅れた状況にありました。しかし、国の法整備なども受けて精神保健福祉士の役割が大きく期待されるようになり、県内でも就労支援施設や地域活動支援センター、病院などで精神障害がある人と地域とをつなぐ精神保健福祉士が年々増加しています。

本会は昭和63年(1988年)に「兵庫PSWの会」として発足し、阪神・淡路大震災を経ながら、国家資格化をきっかけに平成11年(1999年)から兵庫県精神保健福祉士協会として組織を整え、現在に至っています。約800人の会員を擁し、本年4月からは一般社団法人となる予定です。

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

3月10日、社会福祉法人みつみ福祉会が運営する春日学園(丹波市)に、NHKとNHK厚生文化事業団より福祉車両「福祉相撲号」が寄贈された。同車両は、2月に開催された「NHK福祉大相撲」の純益により、全国の福祉施設等に寄贈されるもの。近年の台風災害で被害を受けた同法人において、在宅の障害児・者への療育指導等に活用される予定です。



3月10日、親切会関西支部から、県内の当事者団体等に寄付金が贈呈された。寄付を受けたのは、高砂市支え合う介護者の会「すずらん」の会、若年性認知症の本人とその家族の集い



「東条湖おもちゃ王国」に
子どもたちを招待!

3月14日、東条湖おもちゃ王国(加東市)の主催による「おもちゃ王国の休日」が開催された。このイベントは、企業の社会貢献活動として、県内の児童養護施設や母子家庭などの児童を無料招待するもの。第14回目を数える今回は、福島県から県内に避難している「避難サポートひょうご」からの家族も新たに招待され、計727人がビンゴゲーム大会や園内の乗り物を楽しんだ。



「子いるかの会」、「子どものこれから」とおとなの役割」。親切会では、会員からの歳末募金や寄付金等により、毎年全国の福祉団体等に寄付を行っている。

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

公益財団法人木口福祉財団
平成27年度地域福祉振興助成

市民参加型福祉の促進と地域振興を図り、やさしく明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的に、障害者を支援する福祉活動への助成を行います。

対象事業 ①事業助成(新規事業上げに必要な活動運営費、環境整備に必要な各種工事費・備品購入費、調査・研究・出版費、講演会・講習会等の企画開催費)②車両助成

対象団体 障害者を支援する福祉活動団体、ボランティア活動団体で平成26年度以降に当財団の助成を受けていない団体

助成額 ①1件上限100万円②1件上限300万円※助成対象費用の80%以内

締切り 平成27年4月16日(木)

☎☎公益財団法人木口福祉財団
TEL0797-21-5150

URL <http://www.kiguchi.or.jp/>

2015年度(第13回)
ドコモ市民活動団体への助成

「子どもを守る」「環境を守る」をテーマに取り組む市民活動団体に助成します。

対象 日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体でNPO法人などの法人格を有するもの、または取得申請中の団体で8月末までに法人登記が完了見込みの団体。なお、活動実績が2年以上であること

助成額 子ども分野:総額1,500万円以内、環境分野:総額500万円以内(1件50万円を標準とし、最高100万円までの申請可)

締切り 平成27年4月24日(金)必着

☎☎NPO法人 モバイルコミュニケーション・ファンド事務局
TEL03-3509-7651

URL <http://www.mcfund.or.jp/>

キリン福祉財団 平成27年度
キリン・子ども「力」応援事業

子どもたち自らが主体となって計画・実施する活動に対して助成を行います。

対象 18歳以下のメンバーが中心となり、活動する4人以上のグループ

助成額 1件上限15万円(総額500万円)

締切り 平成27年4月30日(木)

☎☎公益財団法人キリン福祉財団
TEL03-6837-7013

URL <http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>

2015年度ニッセイ財団 高齢社会助成
「地域福祉チャレンジ活動助成」

対象事業 地域包括ケアシステムの展開につながる以下のテーマに該当する活動…①認知症の人の地域での生活を支える活動②サービスの創出に向けた活動など

対象団体 上記テーマにチャレンジする意欲があり、他の団体・機関、住民組織等と協働で活動する団体(法人格の有無は不問)

助成額 1件上限400万円(合計2件)

締切り 平成27年5月31日(日)

☎☎公益財団法人日本生命財団
TEL 06-6204-4013

URL <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

第32回老後を豊かにするボランティア
活動資金助成事業(平成27年度)

高齢者を主な対象とした地域に根ざすボランティア活動の支援を目的として、継続的に使用される用具・機器類の取得資金を助成します。

対象 地域において、高齢者を主な対象として活動を行っているボランティアグループ

助成額 1件上限10万円(合計120グループ程度)

締切り 平成27年5月22日(金)消印有効

☎☎公益財団法人みずほ教育福祉財団
TEL03-3596-4532

URL <http://www.mizuho-ewf.or.jp/>

2015年度大阪堺塚山ロータリークラブ
社会奉仕基金助成金

対象 県内で社会奉仕活動を行い、本助成を平成24年6月以降に受けたことのない団体

助成額 1件上限40万円(合計3団体)

締切り 平成27年5月31日(日)

☎☎大阪堺塚山ロータリークラブ

※問い合わせはメールのみで受付
(osaka.tezukayama.r.c@gmail.com)

URL <http://osaka-tezukayama-rc.cocolog-nifty.com/>

行事予定

4月 21日 兵庫県経営協第233回理事会
◆県福祉センター

22日 社会福祉協議会新任局長研修
◆県福祉センター

22日・23日 社会福祉協議会新任職員研修
◆県福祉センター

5月 30日 福祉サービス利用援助事業 新任
専門員研修会 ◆県福祉センター

11日 障害福祉施設新任職員研修(A
コース) ◆県社会福祉研修所

12日 兵庫県経営協第35回総会・記念
講演会 ◆ザ マーカスクエア 神戸

- 5月 15日 児童福祉施設新任職員研修
◆県社会福祉研修所
- 18日 保育所新任保育士研修(Aコース)
◆県社会福祉研修所
- 20日 新任リーダー研修(Aコース) ◆県社会福祉研修所
- 27日 県社協第238回理事会・第184回
評議員会 ◆県福祉センター
- 27日~ 介護支援専門員専門研修課程1・
更新研修A(前期) ◆神戸ファッション
ショップ他
- 28日 老人福祉施設新任職員研修(Aコース)
◆県社会福祉研修所

県社協役員異動・昇任

平成27年4月1日付、()内は前職名等

- 事務局次長兼総務企画部長 (昇任・総務企画部長) 都 完治
- 総務企画部主任(昇任・地域福祉部
権利擁護センター主事) 富永 堯史
- 県高齢対策課派遣(社会福祉
研修所研修第2部主事) 岸田 彰範
- 総務企画部付部長(生活資金部長) 衣川 哲夫
- 地域福祉部長(昇任・同副部長) 杉田 健治
- 地域福祉部主任(福祉事業部主任) 廣瀬 真由美
- 同 主任(昇任・同主事) 宮崎 香衣
- 同 主事(新規採用) 石井 美沙季
- 同 権利擁護センター主事
(県高齢対策課派遣) 松井 寛泰
- 生活資金部長(福祉事業部長) 福島 真司
- 生活資金部主事(新規採用) 土居 孝之
- 福祉事業部長(地域福祉部長) 馬場 正一
- 福祉事業部経営相談室長兼
福祉サービス運営適正化
委員会事務局長(新規採用) 中野 和幸
- 同 福祉人材センター副部長
(昇任・同主任) 岡地 茂
- 社会福祉研修所長(新規採用) 小野山 政行
- 社会福祉研修所研修第1部長(県派遣・
阪神北県民局県民交流室ビジョン課) 辻岡 克明
- 同 研修第2部主任(地域福祉部主任) 長谷川 哲也
- ひょうごボランティアプラザ事務局次長
兼総務調整部長(同事務局次長) 横山 寿信

退職

平成27年3月31日付

- 生活資金部 主事 前川 奈津子
- 福祉事業部経営相談室長兼福祉サー
ビス運営適正化委員会事務局長 西村 正男
- 社会福祉研修所長 圓尾 辰夫
- 社会福祉研修所研修第1部長
(県派遣終了) 小田 直樹
- ひょうごボランティアプラザ
総務調整部長(県派遣終了) 福田 泰大

ホームページは、**どんどん進化**する。

PC・スマートフォン対応の
WEBサイトをご提案。



フレキシブルな対応で、
お客様の要望を叶えます。

株式会社メックコミュニケーションズ TEL. 078-230-7525
<http://www.mec-com.co.jp>

バリアフリーに配慮した

ユニバーサルデラックスルーム



専用ラウンジでの
朝食・軽食サービスを含む
数々のおもてなしにより
ワンランク上のご滞在を
ご提供いたします。

●ご1泊、朝食、税・サービス料込
【1室料金・2名様ご利用】
¥53,460~¥77,220

Tel.078-302-1111(代表) 神戸・ポートアイランド
ポートピアホテル